

2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年11月6日

上場会社名 株式会社エーアイ 上場取引所 東
 コード番号 4388 URL <https://www.ai-j.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 廣飯 伸一
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 小川 遼 TEL 03 (6801) 8461
 半期報告書提出予定日 2025年11月7日 配当支払開始予定日 ー
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	810	—	△37	—	△42	—	6	—
2025年3月期中間期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2026年3月期中間期 5百万円 (ー%) 2025年3月期中間期 ー百万円 (ー%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	1.09	—
2025年3月期中間期	—	—

(注) 1. 当社は、2025年3月期第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、2025年3月期中間期の数値及びこれに関する対前年同中間期増減率については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期中間期	2,461	2,168	88.0
2025年3月期	2,960	2,518	79.6

(参考) 自己資本 2026年3月期中間期 2,165百万円 2025年3月期 2,357百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年3月期	—	0.00	—	—	—
2026年3月期（予想）	—	—	—	—	—

(注1) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注2) 2026年3月期の配当予想につきましては、現時点で未定としております。

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,800	21.1	90	△17.5	75	△42.4	95	—	14.93

(注1) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：有

新規 1社 (社名) 株式会社Lapis Live

除外 1社 (社名) 株式会社ATR-Trek

(注) 詳細は添付資料P. 10「2. 中間連結財務諸表及び主な注記(4) 中間連結財務諸表に関する注記(企業結合等関係)をご覧ください。

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年3月期中間期	7,004,298株	2025年3月期	7,004,298株
② 期末自己株式数	2026年3月期中間期	791,264株	2025年3月期	363,171株
③ 期中平均株式数(中間期)	2026年3月期中間期	6,361,452株	2025年3月期中間期	4,947,931株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 連結子会社である株式会社Lapis Liveの決算日は1月末日であり、連結決算日(3月末日)との間には2か月の差異があります。当中間連結会計期間につきましては、同社の7月末日現在の財務諸表を使用し、中間連結決算日(9月末日)との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。
2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) キャッシュ・フローに関する説明	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(企業結合等関係)	10
(重要な後発事象)	11

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、インバウンドや万博需要が下支えとなる一方、米国の新関税枠組みの発動、日銀による利上げを巡る議論の進展、円安進行と物価の高止まりを背景に、先行き不透明感が残る局面であります。また、クラウド移行や生成AI需要の拡大、サイバー攻撃の高度化が進む一方、セキュリティ・クラウド人材は逼迫しており、体制整備と人材育成の重要性が一段と高まっております。

当社を取り巻く環境においては、2025年4月1日付でライバーマネジメント事務所である株式会社Lapis Liveを完全子会社化し、音声事業におけるコンシューマービジネスとのシナジーを見据えたIP戦略の強化を進めております。音声事業においては、研究開発体制の効率化と意思決定の迅速化を目的として、株式会社ATR-Trekを2025年9月1日付で吸収合併し、AI音声関連技術の研究開発リソースの最適化と柔軟な開発体制の構築を図っております。また、深層学習を用いた音声合成エンジン「AITalk6」を搭載した新クラウドサービス「AITalk® 声の職人 クラウド版」および「AITalk® WebAPI」をリリースし、従来のオンプレミス製品に加え、より柔軟な利用環境を提供することで、法人顧客の幅広いニーズに対応できる体制を整えました。防災・消防分野やオーディオブック分野における採用も引き続き堅調に推移しております。CRM事業においては、業務効率化や内部人材育成を図るとともに、「Visionary Cloud」の開発を進め、製品機能の拡充および顧客案件への対応を行っております。

当社は、前第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前中間連結会計期間の数値及びこれに関する対前年同期増減率については記載しておりません。

当中間連結会計期間の経営成績につきましては、売上高は810,464千円（前年同期比－）、営業損失は37,667千円（前年同期比－）、経常損失は42,531千円（前年同期比－）、親会社株主に帰属する中間純利益は6,904千円（前年同期比－）となりました。

また、2025年4月1日より株式会社Lapis Liveを当社グループの連結の範囲に含めております。詳細はP. 10「2. 中間連結財務諸表及び主な注記（4）中間連結財務諸表に関する注記事項（企業結合等関係）」をご覧ください。

当社グループの経営成績を適切に表示するために、株式会社Lapis Liveが運営する事業を独立した報告セグメントとして開示することといたしました。

この結果、当社グループの事業セグメントは「音声事業」、「CRM事業」、「ライバーマネジメント事業」、「その他事業」の4区分とすることといたしました。詳細はP. 9「2. 中間連結財務諸表及び主な注記（4）中間連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等の注記）」をご覧ください。

セグメントごとの当中間期の売上高につきましては、次のとおりであります。

セグメントの名称	2025年3月期 中間期 (千円)	2026年3月期 中間期 (千円)	比較増減	
			金額(千円)	増減率(%)
音声事業	—	507,938	—	—
CRM事業	—	253,967	—	—
ライバーマネジメント事業	—	37,258	—	—
その他事業	—	11,300	—	—
報告セグメント計	—	810,464	—	—
その他	—	—	—	—
中間連結財務諸表計上額	—	810,464	—	—

① 音声事業

売上高は507,938千円（前年同期比－）、営業利益は32,695千円（前年同期比－）となりました。

② CRM事業

売上高は253,967千円（前年同期比－）、営業損失は25,366千円（前年同期比－）となりました。

③ ライバーマネジメント事業

売上高は37,258千円（前年同期比－）、営業利益は644千円（前年同期比－）となりました。

④ その他事業

売上高は11,300千円（前年同期比－）、営業損失は18,298千円（前年同期比－）となりました。

前第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、いずれの事業セグメントにおいても前中間連結会計期間の数値及び対前年同期増減率については記載しておりません。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当中間連結会計期間末における流動資産は1,738,739千円となり、前連結会計年度末に比べ382,943千円減少いたしました。これは主に現金及び預金が237,660千円、売掛金及び契約資産が99,796千円減少したことによるものであります。固定資産は720,484千円となり、前連結会計年度末に比べ115,682千円減少いたしました。これは主に前払金が203,634千円減少し、のれんが96,415千円増加したことによるものであります。繰延資産は2,024千円となり、前連結会計年度末に比べ339千円減少いたしました。これは社債発行費が339千円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は、2,461,248千円となり、前連結会計年度末に比べ498,965千円減少いたしました。

（負債）

当中間連結会計期間末における流動負債は222,179千円となり、前連結会計年度末に比べ133,978千円減少いたしました。これは主に買掛金が111,362千円減少し、契約負債が33,056千円増加し、流動負債のその他が57,155千円減少したことによるものであります。固定負債は70,607千円となり、前連結会計年度末に比べ15,399千円減少いたしました。これは主に社債が15,000千円減少したことによるものであります。この結果、負債合計は、292,787千円となり、前連結会計年度末に比べ149,378千円減少いたしました。

（純資産）

当中間連結会計期間末における純資産合計は2,168,461千円となり、前連結会計年度末に比べ349,587千円減少いたしました。これは主に利益剰余金が6,904千円、自己株式が196,114千円増加し、非支配株主持分が158,190千円減少したことによるものです。

この結果、自己資本比率は88.0%（前連結会計年度末は79.6%）となりました。

（3）キャッシュ・フローに関する説明

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の中間連結会計期間末残高は、前連結会計年度末と比較して237,660千円減少し、1,351,291千円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

当社は、前第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前中間連結会計期間の数値は記載しておりません。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において営業活動により支出した資金は、15,691千円となりました。これは主に、売上債権の減少額106,757千円、非資金項目としてののれん償却額40,518千円があったものの、仕入債務の減少額111,362千円、未払金の減少額30,014千円、支払手数料の支払27,342千円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において投資活動により得られた資金は、112,021千円となりました。これは主に、投資有価証券の売却による収入50,095千円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入64,132千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において財務活動により支出した資金は、333,989千円となりました。これは主に、自己株式の取得による支出160,434千円、非支配株主への配当金の支払額125,800千円によるものであります。

（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,588,951	1,351,291
売掛金及び契約資産	315,330	215,533
商品及び製品	3,949	3,962
原材料及び貯蔵品	741	698
預け金	174,550	136,330
その他	38,158	30,921
流動資産合計	2,121,682	1,738,739
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備（純額）	17,288	16,520
工具、器具及び備品（純額）	11,412	10,756
リース資産（純額）	2,602	2,307
有形固定資産合計	31,302	29,584
無形固定資産		
のれん	509,671	606,086
ソフトウェア	53,901	44,767
無形固定資産合計	563,572	650,854
投資その他の資産		
投資有価証券	0	—
前払金	203,634	—
敷金	28,614	26,670
繰延税金資産	6,737	8,675
その他	2,305	4,700
投資その他の資産合計	241,292	40,046
固定資産合計	836,167	720,484
繰延資産		
社債発行費	2,364	2,024
繰延資産合計	2,364	2,024
資産合計	2,960,214	2,461,248
負債の部		
流動負債		
買掛金	148,718	37,355
短期借入金	10,000	10,000
1年内返済予定の長期借入金	2,400	2,400
1年内償還予定の社債	30,000	30,000
リース債務	620	631
未払法人税等	1,405	2,877
契約負債	36,110	69,167
その他	126,903	69,747
流動負債合計	356,158	222,179
固定負債		
社債	75,000	60,000
長期借入金	8,600	7,400
リース債務	2,407	2,089
繰延税金負債	—	1,118
固定負債合計	86,007	70,607
負債合計	442,165	292,787

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	1,405,303	1,403,116
利益剰余金	1,214,545	1,221,449
自己株式	△362,607	△558,722
株主資本合計	2,357,241	2,165,844
非支配株主持分	160,807	2,617
純資産合計	2,518,048	2,168,461
負債純資産合計	2,960,214	2,461,248

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：千円)

	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	810,464
売上原価	399,528
売上総利益	410,935
販売費及び一般管理費	448,602
営業損失 (△)	△37,667
営業外収益	
受取利息	1,340
為替差益	317
補助金収入	1,410
その他	511
営業外収益合計	3,579
営業外費用	
支払利息	823
支払手数料	2,076
その他	5,544
営業外費用合計	8,443
経常損失 (△)	△42,531
特別利益	
投資有価証券売却益	50,094
特別利益合計	50,094
税金等調整前中間純利益	7,563
法人税、住民税及び事業税	2,971
法人税等調整額	△819
法人税等合計	2,151
中間純利益	5,411
非支配株主に帰属する中間純損失 (△)	△1,492
親会社株主に帰属する中間純利益	6,904

(中間連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純利益	5,411
中間包括利益	5,411
(内訳)	
親会社株主に係る中間包括利益	6,904
非支配株主に係る中間包括利益	△1,492

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前中間純利益	7,563
減価償却費	13,879
のれん償却額	40,518
契約負債の増減額(△は減少)	33,056
受取利息及び受取配当金	△1,340
支払手数料	27,342
支払利息	823
投資有価証券売却損益(△は益)	△50,094
売上債権の増減額(△は増加)	106,757
仕入債務の増減額(△は減少)	△111,362
未払金の増減額(△は減少)	△30,014
その他	△27,000
小計	10,129
利息及び配当金の受取額	1,340
利息の支払額	△807
法人税等の支払額	△2,425
法人税等の還付額	3,413
支払手数料の支払額	△27,342
営業活動によるキャッシュ・フロー	△15,691
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△2,206
投資有価証券の売却による収入	50,095
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	64,132
投資活動によるキャッシュ・フロー	112,021
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△1,200
社債の償還による支出	△15,000
リース債務の返済による支出	△307
自己株式の取得による支出	△160,434
配当金の支払額	△307
非支配株主への配当金の支払額	△125,800
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△30,940
財務活動によるキャッシュ・フロー	△333,989
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△237,660
現金及び現金同等物の期首残高	1,588,951
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,351,291

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 当中間連結会計期間（自 2025年4月1日 至 2025年9月30日）

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び経営成績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものがあります。

「音声事業」は、音声関連製品のライセンス供与、受託業務、クラウドサービスの提供並びにコンシューマー向け製品の販売を行っております。

「CRM事業」は、デジタルマーケティング市場における当社CRM製品Visionary及びVisionary Cloudを販売する事業を行っております。

「その他事業」は、連結子会社である株式会社スーパーワンの主力事業である、デジタル教科書及び教材に関連するアプリ等受託開発を行う事業を行っております。

なお、当社は、2025年4月1日付で株式会社Lapis Liveを連結子会社とし、「ライバーマネジメント事業」を報告セグメントに追加しております。「ライバーマネジメント事業」はライブ配信者、タレントの育成、マネジメント及びプロモート業務並びに各種イベントの企画、運営及び管理を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)	中間連結損 益計算書計 上額
	音声事業	CRM事業	ライバーマネ ジメント事業	その他事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	507,938	253,967	37,258	11,300	810,464	-	810,464
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	172	-	-	172	△172	-
計	507,938	254,140	37,258	11,300	810,636	△172	810,464
セグメント利益又は損 失 (△)	32,695	△25,366	644	△18,298	△10,324	△27,342	△37,667

(注) 調整額は、セグメント間の内部取引の消去額及び子会社株式の取得関連費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当中間連結会計期間において、株式会社Lapis Liveの全株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、「ライバーマネジメント事業」セグメントにおいて、のれんが発生しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当中間連結会計期間において136,933千円であります。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、2025年2月5日及び2025年5月21日開催の取締役会決議において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について決議し、当中間連結会計期間において自己株式431,400株の取得を行いました。この結果、当中間連結会計期間において、自己株式が198,654千円増加し、当中間連結会計期間末において自己株式が558,722千円となっております。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（企業結合等関係）

（取得による企業結合）

当社は、2025年3月26日開催の取締役会において、株式会社Lapis Live（以下、「Lapis Live」という。）の株式を取得し、子会社化することについて決議し、同日付で株式譲渡契約を締結し、2025年4月1日付で株式を取得しました。

1. 企業結合の概要

（1）被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社Lapis Live

事業の内容 1. ライブ配信者、タレントの育成、マネジメント及びプロモート業務
2. 各種イベントの企画、運営及び管理

（2）企業結合を行った主な理由

Lapis Live は2022年に設立された、バーチャルキャラクターにて各種アプリサービスを利用してライブを行う配信者（V ライバー）のマネジメント事務所を運営するスタートアップ企業であり、所属 V ライバーは400名を超える業界大手の事務所であります。

当社においては特にコンシューマー向けサービス「A. I. VOICE」において、自社キャラクターに加えて多くのサードパーティキャラクターに参画いただき、個人向け音声合成ソフトウェアに留まらない展開を行っております。今後の当社における幅広いキャラクターIP事業展開と、バーチャルライブ配信「IRIAM」における主要なライバーマネジメント事務所であるLapis Liveとは事業親和性は高くシナジー効果が発揮できるものであると認識しております。

また、当社におけるコンシューマー事業の多角展開の観点に加え、Lapis Live の事業の安定的継続と発展に大きく寄与するものと判断しております。

（3）企業結合日

2025年4月1日

（4）企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

（5）結合後企業の名称

変更はありません。

（6）取得した議決権比率

100%

（7）取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによります。

2. 中間連結会計期間に係る中間連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2025年2月1日から2025年7月31日まで

被取得企業の決算日は1月31日であり、連結決算日との差異が3ヶ月を超えないことから、被取得企業にて仮決算を実施した7月31日現在の決算書を使用しております。

但し、8月1日から中間連結決算日9月30日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金及び預金	200,000千円
-------	--------	-----------

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等	27,342千円
-----------	----------

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

発生したのれん	金額	136,933千円
発生原因	今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力であります。	
償却方法及び償却期間	5年間にわたる均等償却	

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	71,360	千円
固定資産	3,000	千円
資産合計	74,360	千円
流動負債	11,294	千円
固定負債	—	千円
負債合計	11,294	千円

(共通支配下の取引等)

連結子会社の吸収合併

当社は、2025年7月18日開催の取締役会において、2025年9月1日を効力発生日として、当社の完全子会社である株式会社ATR-Trekを吸収合併することを決議し、同日付で吸収合併契約を締結いたしました。

1. 企業結合の概要

(1) 被結合企業の名称及びその事業の内容

名 称：株式会社ATR-Trek

事業の内容：音声認識、翻訳技術の開発

(2) 合併契約締結日

2025年7月18日

(3) 企業結合日

2025年9月1日

(4) 企業結合の法的形式

当社を存続会社とし、株式会社ATR-Trekを消滅会社とする吸収合併

(5) 結合後企業の名称

株式会社エーアイ

(6) その他取引の概要に関する事項

意思決定の迅速化に加えて、事業戦略・研究開発組織の一本化を図り、AI音声関連技術の研究開発リソースの最適化と迅速かつ柔軟な研究開発体制の構築を目的として吸収合併することといたしました。

2. 会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号2019年1月16日）および「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号2024年9月13日）に基づき、共通支配下の取引として処理いたします。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。